

1. 教育課程編成・実施の方針

英語科の卒業認定・学位授与の方針で示された能力を学生が身につけることを可能とするため、教養科目、英語科目、基礎・専門科目を効果的に編成します。知性の段階的発展を可能とし複数専門科目群を収める幅広い知を提供する教育課程を構成することで、キリスト教ヒューマンイズムの精神と人間理解を礎とする教養を身につけ、自己発信力に重点を置いた実用的かつ学術的英語力を修得し、国際的な視野と地球市民的意識から得られる専門的知識と協働・共生の力を発展させ、国際社会・多文化共生社会に貢献する人材を育成します。

【獲得すべき学修成果五つの視点】

英語科では、卒業認定・学位授与の五つの方針で定められた能力を獲得するために、「キリスト教ヒューマンイズム理解力」「教養力」「英語力」「専門力」「地域の国際化・多文化共生力」の五つの修得すべき学修成果を尺度に精査した授業やプログラムを配置します。

【科目群別課程編成方針】

1. 教養科目群

本学での学びの基礎を築く教養必修科目として「人間学Ⅰ」を配置します。同科目ではキリスト教ヒューマンイズムに基づく人間観を理解し、他者とのかかわりの中での自己形成を目指します。そこでの学びを受け、主に人文・社会科学各分野における学問体系に関するバランスのよい知識・理解を得ることを目的に教養選択科目を配置します。

2. 英語科目群

2-1. 必修英語科目

第1～第4セメスター（それぞれ準備期・発展期・応用期・完成期）にわたる履修のため、各学期に「必修英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、学修内容としてそれぞれ他者とともに生きる、異文化との遭遇、日本における社会問題、日本と世界というテーマを発展的に学び、自己発信力に重点を置きながら英語の4技能を修得します。ペアワークや発表等の能動的学びが中心的活動を成します。それらを通し、「他者のために、他者とともに」という本学の教育の精神を持つ責任ある地球市民となるために必要な知識と理解を深め、複眼的・批判的・論理的な思考力を伸ばします。同時に他者の考えを尊重しながら自分の考えを効果的に表現する力をつけます。課題やe-learningを通し自律した学修者となるための技能を身につけます。必修英語科目での学びは、学内英語発表イベントである、Sophia Junior English Festaの準備学修を含みます。また各学年の学生が適切な習熟度別のクラスで学べるようクラスを編成します。

2-2. TOEIC対策講座科目

第1セメスター（準備期）及び第2セメスター（発展期）までの履修のため、各学期に「TOEIC対策講座Ⅰ・Ⅱ」を配置し、グローバル化する社会で職業人としてキャリア形成を行うために必要な英語力の基礎を身につけることを目指します。また各学生が適切な習熟度別のクラスで学べるようクラスを編成します。

2-3. 英語スキルズ科目

第1セメスター（準備期）、第2セメスター（発展期）及び第3セメスター（応用期）の履修のため各学期に「英語スキルズ科目」を配置し、学生が様々な英語技能やアカデミックなトピックを扱う科目を選択し、それらの技能の発展、トピックに関する知識・理解を深めることができるように、科目を編成します。また習熟度別のクラスを配置します。

2-4. 英語ファンダメンタルズ

第2セメスター（発展期）に、必修英語科目のひとつである英語Ⅰの成績が「F」であった者のために、学修支援を行うリメディアル科目を設置します。履修者に単位付与はありませんが、「P」の評価を受ける必要があります。

3. 基礎科目群・専門科目群と専門領域

本学において専門性と結びついた知識の修得を可能とするため、基礎科目群・専門科目群内に以下の4つの専門領域を設けます。

- 3-1. 異文化理解
- 3-2. 英米文学研究
- 3-3. 言語研究
- 3-4. 言語教育

4. 基礎科目群

本学が定める4領域のテーマを学ぶにあたり、導入科目となりうる科目を基礎科目群として配置します。主に第2 Semester（発展期）から第3 Semester（応用期）での履修を念頭に置いています。

5. 専門科目群内の選択科目

本学が定める「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育」の4領域において効果的に科目を配置します。各領域は、多様な分野において知識・理解の点で独自の教育内容を持つ科目によって構成されます。基礎科目群の概論科目での学びを受け、主に第3 Semester（応用期）から第4 Semester（完成期）に、専門的知識や技能を修得することができるように、専門科目を配置します。また科目群の一部で反転授業を行い、同時にアクティブラーニングの手法を用いて、能動的な学びや課題解決と結びついた学びを実施します。

6. 専門科目群内のゼミナール科目

本学では、段階を踏んだゼミナール科目を4 Semester（2年間）にわたって設けています。

6-1. 基礎ゼミナール

第1 Semester（準備期）に履修し、大学で学ぶにあたって必要なアカデミックスキル修得の導入教育を行い、リサーチの基礎・論文作成・口頭発表の方法を学ぶとともに、キャリア設計の第一歩を踏み出すために必要な知識を身につける演習を行います。

6-2. プレ・ゼミナール

第2 Semester（発展期）に履修し、特定の研究分野において自身の研究テーマを設定し、それに基づく演習を通して、能動的な学びを行います。このような学修により、基礎的研究手法を用い、論理的・批判的思考力、論文作成力、口頭発表力、協働により問題を解決する力を身につけます。

6-3. ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ

第3 Semester（応用期）と第4 Semester（完成期）にそれぞれ履修し、自身の設定したテーマをより深く研究していく過程で、高度な研究手法の知識を得ます。自律的思考に基づく独自の問題提起をし、討論、口頭発表、研究論文作成力の素養を統合的に身につけることができます。協働により問題を解決する力もより発展させます。「ゼミナールⅡ」では、学修成果の集大成としてゼミナール論文の作成を行います。

7. 基礎科目・専門科目群内のサービスラーニング関連科目

キリスト教ヒューマニズムに基づく奉仕の精神と地球市民的意識を持って、多文化共生の実現に向けて実践することを目的にし、基礎科目・専門科目群内にサービスラーニング関連科目として、児童英語教育や日本語教育等の科目を配置します。正課カリキュラムでの学びを受け、その成果を地域社会で実践し、地域社会で学んだ内容を授業へとフィードバックします。またサービスラーニング関連科目には、アクティブラーニングの手法を用いて、能動的な学びや地域社会での課題解決を行う科目もあります。

8. インデペンデント・スタディ

指導教員の下、学生が独自に設定したテーマについて、主体的に調査・考察した成果をまとめ、発表を行う自律的総合学修です。本プログラムはゼミナールや専門科目等で学んだテーマをさらに拡大・展開させたり、新たな知の領域に挑戦したいという学生の積極的な学修・研究意欲に応えるために設置されています。

9. 短期留学プログラム

本学では、短期留学プログラムを提供しています。本プログラムの参加者は、事前に「留学準備」科目を修め、派遣先の学校で所定の条件を満たすことにより3単位（「留学準備」1単位、「海外短期語学講座」2単位）を取得することができます。「留学準備」科目では、本プログラムに参加する目的や、その経験をどのように活かしていくかを明確にしていくことで、学修効果を向上させることができます。また、各種ガイダンスやロールプレイ等により、留学先の文化や海外生活で必要となる知識、危機管理方法を学ぶことができます。さらに、参加者は、学期中にTOEIC-IPを受験することで、留学による語学力向上の成果を客観指標で計ることができます。

10. 3大学合同ペルースタディツアー

上智大学および南山大学と本学が合同で開講するプログラムです。学生をペルーへ派遣し、ペルーをはじめとした中南米の社会や文化を学ぶとともに現地日系人コミュニティーへの訪問等を通じて文化背景を異にする人々がともに生きるために必要な視野の獲得と国際理解の促進を目指します。

11. 上智大学科目等履修生制度の導入による単位認定制度

上智大学で開講されている科目を本学の学生が履修することができる制度です。この制度では、 Semesterごとに6単位、最大12単位を上限に履修することができ、取得した上智大学の単位は本学の単位として認定することができます。この制度を活用することにより、本学で開講されていない領域や、多様な専門的学問領域をより深く探求することができます。また難易度別のナンバリングに基づき、本学開講科目と上智大学開講科目との間で整合性を取り、単位認定を行います。

12. キャリア形成支援

本学は、キャリア教育の一環として、学生の多様な進路希望に対応するために、キャリアパスや就職、編入学に関する科目やガイダンス、専門カウンセラーによる個別指導等の支援プログラムを設けています。これらのプログラムに主体的に参加することにより、社会人基礎力を成長させ、編入学や就職等における実践的な知識を得ることができます。

学修成果の評価

- (1) 英語学修の評価は、学期ごとに受験する外部試験TOEICにより行います。
- (2) 教養力の学修成果の評価は、教養必修科目「人間学Ⅰ」を通して得た学びの成果を対象に、所定のアセスメントポリシーに従って行います。ルーブリックを用いて年次アセスメントとして行います。
- (3) 専門力の学修成果の評価は、学修の集大成であるゼミナール論文を用いて、所定のアセスメントポリシーに従って行います。ルーブリックを用いて年次アセスメントとして行います。
- (4) 総合的な学修成果の評価は、学期ごとに学生が自己評価した学修ポートフォリオを用いて、アドバイザー教員が行います。更にゼミナール科目内で学修ポートフォリオの内容を基に、学生同士で意見交換をし自己と他者による評価を行います。
- (5) 総合的な学修成果の評価は、卒業時に実施されるアンケートにおいて、学生が行います。その結果の評価は、所定のアセスメントポリシーに従って、年次アセスメントとして行います。

内部質保証のための総合的な評価方針については、アセスメントポリシー（カリキュラム、ティーチング、ティーチングアウトカムズ、ラーニングアウトカムズアセスメントポリシー）を参照のこと。

2. カリキュラムマップ

学位授与規定・ 卒業要件 各方針 各方針 各方針	共通科目 上智大学短期大学部英語科では、キリスト教ヒューマンズを基盤とする豊かな教養を修得します。また自己発信に重点を置いた実用的かつ学術的な英語力とともに、多様な文化、歴史、思想とかかわる現象を批判的に考察し、自らの考えを発信し、主体性を持ち他者と協働できる力を獲得します。それらを礎として、継続的に言語及び学問上の課題を探究し続けるための方法と志向を持ち、同時に地球市民的立場から多文化共生の理念を実践できる人材を育成します。	2. 学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます
	1. キリスト教ヒューマンズに立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます	
	キリスト教ヒューマンズを、キリスト教倫理や哲学において理解し、そこで獲得した視座に基づき人間及び社会的現象を考察できます。そして、その精神の根底に在る人間の尊厳への敬意、他者愛、献身の心を深く理解するとともに、他者とのかかわりの中で自己形成を行い、人間関係、共同体を構築する力を備えます。	大学での学びに必要な読解力、論理的文章構成力、発表力を身につけます。同時に人文・社会科学を中心とする幅広い教養を修得し、人間と社会にかかわる多様な事象を理解し、意見を発信する力を身につけます。

修得すべき 学修成果 大分類	キリスト教ヒューマンズ理解力		教養力	
	科目名・科目群名	主な学修成果獲得の観点	科目名・科目群名	主な学修成果獲得の観点
(第四セメスター・完成期) 主な履修学期	◆キリスト教ヒューマンズ関連科目 「キリスト教文化入門」	【知識・理解】キリスト教思想・倫理、文化 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的 思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作 成力		

(第三セメスター・応用期) 主な履修学期	◆キリスト教ヒューマンズ関連科目 「倫理学」	【知識・理解】キリスト教思想・倫理、文化 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的 思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作 成力		

(第二セメスター・発展期) 主な履修学期	◆キリスト教ヒューマンズ関連科目 「人間学Ⅱ」 「哲学」 「宗教学」 「キリスト教文化入門」	【知識・理解】キリスト教思想・倫理、哲学、文化 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的 思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作 成力 【態度・志向性】自己形成力(「人間学Ⅱ」)	◆体育理論・実技教養科目 「体育理論(ウエルネスと身体)」 「体育(球技1)」 「体育(球技2)」	【知識・理解】体育理論 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、体育実 技力
			◆情報リテラシー系教養科目 「基礎コンピューター演習」	【知識・理解】情報学 【思考・判断】IT倫理・セキュリティ 【技能・表現】データ処理、文書作成、自己表現、コ ミュニケーション力
			◆人文系、社会科学系、およびその他の教養科目 「人間学Ⅰ」 「哲学」 「宗教学」 「音楽」 「社会学」 「法学」 「教育学」 「経営学」 「社会福祉入門」 「マスメディア論」 「数学」	【知識・理解】人文学、社会科学、芸術、科学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的 思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作 成力

(第一セメスター・準備期) 主な履修学期	◆キリスト教ヒューマンズ関連科目 「人間学Ⅰ」 「哲学」「女性と哲学」 「宗教学」 「倫理学」	【知識・理解】キリスト教思想・倫理、哲学、女性学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的 思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作 成力 【態度・志向性】自己形成力(「人間学Ⅰ」) 【協働・共生】他者との協働力(「人間学Ⅰ」)	◆体育理論・実技教養科目 「体育理論(ウエルネスと身体)」 「体育(球技1)」 「体育(球技2)」	【知識・理解】体育理論 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、体育実 技力
			◆情報リテラシー系教養科目 「基礎コンピューター演習」	【知識・理解】情報学 【思考・判断】IT倫理・セキュリティ 【技能・表現】データ処理、文書作成、自己表現、コ ミュニケーション力
			◆人文系、社会科学系、およびその他の教養科目 「人間学Ⅰ」 「歴史学」 「哲学」 「女性と哲学」 「宗教学」 「社会学」 「日本国憲法」 「教育学」 「経済学」 「マスメディア論」 「心理学」	【知識・理解】人文学、社会科学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的 思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作 成力
			◆基礎ゼミナール	【知識・理解】基礎的研究法 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】文章読解、日本語文章作成、コミュ ニケーション、自己表現、発表力

学位授与の方針	共通科目 各方針各方針概要	上智大学短期大学部英語科では、キリスト教ヒューマニズムを基盤とする豊かな教養を修得します。また自己発信に重点を置いた実用的かつ学術的な英語力とともに、多様な文化、歴史、思想とかわる現象を批判的に考察し、自らの考えを発信し、主体性を持ち他者と協働できる力を獲得します。それらを礎として、継続的に言語及び学問上の課題を探究し続けるための方法と志向を持ち、同時に地球市民的立場から多文化共生の理念を實踐できる人材を育成します。
		3. 自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます
		英語を実践的かつ学術的に運用するために重要な主題として、(1) 自己形成と他者との共存、(2) 異文化・多文化、(3) 日本における社会問題、(4) 日本の問題と国際問題、にかかわる知識とともに、自己発信力に重点を置いた4技能(読む・書く・聴く・話す)を身につけることができます。

修得すべき学修成果の分類		英 語 力	
科目名・科目群名	科目名・科目群名	主な学修成果獲得の観点	
(第四セメスター・完成期)	◆英語で学ぶ専門科目 「文化人類学」 「平和と開発」 「第二言語習得」 「言語とリテラシー教育」		【知識・理解】言語、教育、倫理、国際開発 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力
	◆「ゼミナールⅡ」		【知識・理解】人文学・社会科学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】専門文献読解、研究論文作成、研究発表、討論力 【態度・志向性】研究での自律性 【協働・共生】討論を通じた他者との協働力
	◆自律研究科目 「インデペンデント・スタディ」		【技能・表現】自律研究、研究発表力
	◆「英語Ⅳ」		【知識・理解】日本と世界との関係 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力
(第三セメスター・応用期)	◆英語で学ぶ基礎・専門科目 「異文化間コミュニケーション」 「現代美術」		【知識・理解】異文化、コミュニケーション、美術 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力
	◆「ゼミナールⅠ」		【知識・理解】人文学・社会科学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】専門文献読解、研究論文作成、研究発表、討論力 【態度・志向性】研究での自律性 【協働・共生】討論を通じた他者との協働力
	◆自律研究科目 「インデペンデント・スタディ」		【技能・表現】自律研究、研究発表力
	◆英語スキルズ科目 「基礎(生活の英語)」 「基礎(リーディング)」 「基礎(文法・語彙)」 「基礎(ライティング)」 「標準(ディスカッション)」 「標準(文法・語彙)」 「標準(ライティング)」 「標準(職場の英語)」 「標準(リーディング)」 「標準(パブリック・スピーキング)」 「標準(編入対策)」 「準上級(諸学問領域)」 「上級(TOEIC4技能対策)」 「上級(多読速読)」 「上級(編入対策)」		【知識・理解】言語、異文化、国際問題、社会問題、学術的専門分野、ビジネス、キャリア形成 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力
◆「英語Ⅲ」		【知識・理解】日本における社会問題 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力	
(第二セメスター・発展期)	◆英語で学ぶ教養・専門科目 「人間学Ⅱ(S)」		【知識・理解】キリスト教思想・倫理 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力
	◆「プレ・ゼミナール」		【知識・理解】人文学・社会科学 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】専門文献読解、研究論文作成、研究発表、討論力育成への準備 【態度・志向性】自律した研究への準備 【協働・共生】討論を通じた他者との協働力
	◆「海外短期語学講座」		【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力
	◆英語スキルズ科目 「基礎(生活の英語)」 「基礎(リーディング)」 「基礎(文法・語彙)」 「基礎(ライティング)」 「標準(文法・語彙)」 「標準(ライティング)」 「標準(リーディング)」 「標準(旅行の英語)」 「標準(メディアの英語)」 「準上級(社会学)」 「準上級(TOEICスピーキング・ライティング対策)」 「上級(TOEICスピーキング・ライティング対策)」 「上級(学術論文作法)」		【知識・理解】言語、異文化、国際問題、社会問題、学術的専門分野、ビジネス、キャリア形成 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力
	◆リメディアル科目 「英語ファンダメンタルズ」		
	◆「TOEIC対策講座Ⅱ」		【知識・理解】ビジネス事情 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】読解・リスニング
◆「英語Ⅱ」		【知識・理解】異文化との遭遇 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力	
(第一セメスター・準備期)	◆英語で学ぶ教養・専門科目 「人間学Ⅰ(S)」		【知識・理解】キリスト教思想・倫理 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力
	◆「海外短期語学講座」		【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力
	◆英語スキルズ科目 「基礎(生活の英語)」 「基礎(リーディング)」 「基礎(文法・語彙)」 「基礎(ライティング)」 「標準(ディスカッション)」 「標準(文法・語彙)」 「標準(ライティング)」 「標準(職場の英語)」 「標準(リーディング)」 「標準(パブリック・スピーキング)」 「標準(編入対策)」 「準上級(諸学問領域)」 「上級(TOEIC4技能対策)」 「上級(多読速読)」 「上級(編入対策)」		【知識・理解】言語、異文化、国際問題、社会問題、学術的専門分野、ビジネス、キャリア形成 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力
	◆「TOEIC対策講座Ⅰ」		【知識・理解】ビジネス事情 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】読解・リスニング力
◆「英語Ⅰ」		【知識・理解】他者との共存の諸問題 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力	

Ⅲ・英語科カリキュラムの特徴 ②・カリキュラムマップ

学位授与規定、 卒業要件、 各方針、 各方針目標	共通科目 上智大学短期大学部英語科では、キリスト教ヒューマンズを基盤とする豊かな教養を修得します。また自己発信に重点を置いた実用的かつ学術的な英語力とともに、多様な文化、歴史、思想とかわる現象を批判的に考察し、自らの考えを発信し、主体性を持ち他者と協働できる力を獲得します。それらを礎として、継続的に言語及び学問上の課題を探究し続けるための方法と志向を持ち、同時に地球市民的立場から多文化共生の理念を実践できる人材を育成します。
	4. 専門知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます

科目名・科目群名	専門力		地域の国際化・多文化共生力	
	科目名・科目群名	主な学修成果獲得の観点	科目名・科目群名	主な学修成果獲得の観点
(第四セメスター・完成期) 主な履修学期	◆「ゼミナールⅡ」	【知識・理解】人文学・社会科学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】専門文献読解、研究論文作成、研究発表、討論力 【態度・志向性】研究での自律性 【協働・共生】討論を通じた他者との協働力	◆日本語教育SL科目 「ゼミナールⅡ」 「バイリンガル教育」 「サービスマスターニング(地域日本語支援B)」 「サービスマスターニング(小中学校日本語支援B)」	【知識・理解】言語教育理論、多文化 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】多文化間の協働・共生力
	◆専門科目 異文化理解関連科目 「比較社会史」「文化人類学」 「言語とリテラシー教育」「平和と開発」 英米文学関連科目 「英語研究」「映画と文学」「翻訳演習」 言語研究関連科目 「音声学」「語用論」「英語史」 言語教育関連科目 「バイリンガル教育」「初等教育」 「発達心理学」「第二言語習得」 「児童英語教育演習B」 「児童英語指導者養成講座」	【知識・理解】異文化理解、英米文学、言語研究、言語教育 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力	◆児童英語教育SL科目 「ゼミナールⅡ」 「第二言語習得」 「児童英語教育演習B」 「児童英語指導者養成講座」	【知識・理解】言語教育理論、異文化 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力 【協働・共生】地域社会の国際化のための協働力
	◆自律研究科目 「インデペンデント・スタディ」	【技能・表現】自律研究、研究発表力		
	◆専門科目群基礎科目 「キリスト教文化入門」 「英文学概論」 「言語学概論」	【知識・理解】異文化理解、英米文学、言語研究、言語教育 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力		

(第三セメスター・応用期) 主な履修学期	◆「ゼミナールⅠ」	【知識・理解】人文学、社会科学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】専門文献読解、研究論文作成、研究発表、討論力 【態度・志向性】研究での自律性 【協働・共生】討論を通じた他者との協働力	◆日本語教育SL科目 「ゼミナールⅠ」 「サービスマスターニング(地域日本語支援A)」	【知識・理解】言語教育理論、多文化 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】多文化間の協働・共生力
	◆専門科目 異文化理解関連科目 「東洋研究」「英米史」「国際関係論」 「現代美術」「比較・国際教育学」「倫理学」 英米文学関連科目 「イギリスの文化と文学」 言語研究関連科目 「社会言語学」 言語教育関連科目 「児童英語教育演習A」	【知識・理解】異文化理解、英米文学、言語研究、言語教育 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力	◆児童英語教育SL科目 「ゼミナールⅠ」 「児童英語教育演習A」	【知識・理解】言語教育理論、異文化 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力 【協働・共生】地域社会の国際化のための協働力
	◆自律研究科目 「インデペンデント・スタディ」	【技能・表現】自律研究、研究発表力		
	◆基礎科目 「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」 「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「日本語表現法」	【知識・理解】言語、異文化 【技能・表現】言語4技能、日本語作文力、コミュニケーション、発表力		

(第二セメスター・発展期) 主な履修学期	◆「プレ・ゼミナール」	【知識・理解】人文学、社会科学 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】専門文献読解、研究論文作成、研究発表、討論力育成への準備 【態度・志向性】自律した研究への準備 【協働・共生】討論を通じた他者との協働力	◆三大学会同ホールステイタツアー「往還する南米日系人」	【知識・理解】日本、南米史、バイリンガリズム、アイデンティティ形成、教育学 【技能・表現】英語、スペイン語、討論、発表 【態度・志向性】グローバルな課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】異なる大学および異なる国民間での協働力
	◆専門科目群基礎科目 「英文学概論」「言語学概論」	【知識・理解】異文化理解、英米文学、言語研究、言語教育 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力	◆「サービスマスターニング入門講座」	【知識・理解】キリスト教奉仕の精神、言語教育、異文化、ボランティア論 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】地域社会の国際化のための協働力、多文化間の協働・共生力
	◆基礎科目 「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「日本語表現法」「キャリアプランニング」「留学準備」	【知識・理解】言語、異文化、海外社会事情、キャリア形成 【技能・表現】言語4技能、日本語作文力、コミュニケーション、発表力	◆日本語教育SL科目 「プレ・ゼミナール」 「バイリンガル教育」 「サービスマスターニング(地域日本語支援B)」 「サービスマスターニング(小中学校日本語支援B)」	【知識・理解】言語教育理論、多文化 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】多文化間の協働・共生力

(第一セメスター・準備期) 主な履修学期	◆基礎科目 「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「日本語表現法」「留学準備」	【知識・理解】言語、異文化、海外社会事情 【技能・表現】言語4技能、日本語作文力、コミュニケーション、発表力	◆「サービスマスターニング入門講座」	【知識・理解】キリスト教奉仕の精神、言語教育、異文化、ボランティア論 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】地域社会の国際化のための協働力、多文化間の協働・共生力
	◆専門科目群基礎科目 「児童英語教育概説」	【知識・理解】異文化理解、英米文学、言語研究、言語教育 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力	◆日本語教育SL科目 「サービスマスターニング(地域日本語支援A)」	【知識・理解】言語教育理論、多文化 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】多文化間の協働・共生力

3. 英語科卒業認定・学位授与の方針と開講科目との関連

「上智大学短期大学部英語科卒業認定・学位授与の方針」(P.6)で明示している5つの資質・能力と、それらに到達するために履修すべき科目と科目が持つ主な学修成果の観点が「上智大学短期大学部英語科カリキュラムマップ2019(P.50～52)」で記されています。

また、それぞれの科目を受講することで、どのような学修成果を得られるかが把握できるようにするため、P.68以降の「開講科目表」では、その関連性を一覧で示しています。ここでは、英語科卒業認定・学位授与の方針で定める5つの資質・能力について、1-5の番号で表しています。また、具体的な学修成果獲得の観点について、1-①から5-③までの数字によって関連する科目として表しています。

4. 特色ある学び—サービスラーニング

サービスラーニングとは「社会参加、実践を通じた学外での学びと、授業などの学内での学びの融合」を意味します。ボランティア活動などの社会奉仕活動(サービス)を通して社会参加を行い、そこで得られる学びと授業を通して得られる学び(ラーニング)を効果的に結びつけて、「社会の知恵」と「教室の知識」を融合する試みです。

キリスト教ヒューマンズムにおける他者への奉仕の精神に則った本学のサービスラーニング活動の中核を成すのは、多文化共生社会の実現に向けた言語教育の実践である地域の外国籍市民を対象とした日本語支援や教科学習支援活動、また地域社会の国際化を目指して、地域の教育機関で行う英語教育支援活動です。それらは「他者のために、他者とともに(Men and Women for Others, with Others)」という上智の教育精神を体現する活動であり、学生はこれらを通して社会人基礎力と人間力を成長させていきます。そのことは共同体と社会の主体的な構成員として、自らの意思によって積極的に共同体と社会を形成し育むと同時に、確かな責任を担うことのできる女性への成長と繋がっていきます。

(1) 日本語・教科学習支援ボランティア

本学の日本語・教科学習支援ボランティアは、1988年に学生と教職員によって外国籍市民宅で、日本語や生活の支援を行う形でスタートしました。現在は秦野市との連携のもと、「カレッジフレンド」として、市内の小中学校に学生が赴いて、国際教室(外国につながるのある児童生徒のための日本語教室)で担当教諭の指示の下で日本語学習を手伝ったり、あるいは通常の授業に入り、外国につながるのある児童生徒に寄り添って、日本語や教科学習の手助けを行っています。また、「コミュニティフレンド」として本学や公民館などの公的施設で、外国につながるのある児童生徒や成人に対しても支援を行っています。

このような活動を通して、学生は異文化や語学教育への理解を深め、主体的な奉仕の精神を体験的に学びます。また、地域の方々との関わりにより、コミュニケーション能力などの社会人基礎力も培っていきます。

(2) 児童英語教育ボランティア

本学では、児童英語教育に興味を持つ学生が、歌やゲームを取り入れたコミュニケーション活動を軸においた英語のレッスンを地域の幼稚園、保育園、小学校などで行い、子どもたちに英語の楽しさを感じてもらおうボランティア活動を、15年あまり続けてきました。現在は、秦野市教育委員会との連携のもと、「イングリッシュフレンド」として、秦野市内の公立小学校で年間約170学級に対してオリジナルの英語レッスンを実施しています。また、「キッズイングリッシュフレンド」として、定期的に市内の公共機関で幼児への英語絵本読み聞かせ等を行っています。その他、小学生の英語キャンプでの英語活動支援、中学生への英語ロールプレイ授業など、活動の幅が毎年広がっています。

このような活動を通して、学生は自分自身の英語力強化のみならず、児童英語教育、児童教育の実践的な学びや更なる言語教育分野への理解を深めます。

以上のようなサービスラーニング活動を支援するため、学生総合支援センター サービスラーニング部門(サービスラーニングセンター)を2号館2階に設置しています。(開室時間はP.20参照)当部門は地域社会への窓口として、地域の教育機関、公的機関、団体、および家庭と連携し、本学学生が行う様々なボランティア活動を支援します。コーディネーターおよびチューターと呼ばれるスタッフが常駐しており、教員と連携して学生に対して活動のアドバイスを行うほか、派遣先とスケジュールや人員の調整などを行っています。また、本学は「秦野市と上智短期大学との提携に関する協定書」を締結し、秦野市と連携して活動の充実を図っています。

5. サービスラーニングとカリキュラムとの関連

サービスラーニングは学外での学びと授業などの学内での学びの融合であることは既述のとおりですが、学内での学びとして、基礎・専門科目群に日本語教育と児童英語教育に関連する科目が置かれています。学生はこれらの科目を履修することで、学問的な裏付けを持って活動に臨むことができます。

「サービスラーニング入門講座」はサービスラーニング活動を希望する全ての学生に履修することを推奨する科目で、本学の教育精神とサービスラーニングとの関連、活動の心構え、活動概要、秦野市の地域特性や課題、教育現場のニーズ等について学びます。

日本語教育の関連科目として、「日本語教授法」、「バイリンガル教育」、「日本語学」などが開講され、成人や年少者への日本語支援や日本語の構造に関する理論的、体系的知識を得ることができます。また、2019年度より「サービスラーニング（小中学校日本語支援）」、「サービスラーニング（地域日本語支援）」が開講されます。これらの科目は講義と実習（学校または日本語教室での日本語・教科学習支援）がほぼ交互になるように構成され、講義では日本語教育、多文化共生等について学ぶほか、実習の計画や振り返りも行います。日本語教室での活動については、科目履修をせず、ボランティアとして行うことも可能です。

また、児童英語教育の関連科目として「児童英語教育演習」、「第二言語習得」、「児童英語指導者養成講座」などが開講され、英語教育全体の概観、言語習得理論、英語教育の方法論を学ぶことができます。

英語の公教育が大きく変わり、小学生から英語を習うようになりました。2011年度より小学校5・6年生の「外国語（英語）活動」が必修化され、2020年には新しい学習指導要領のもと、3・4年生での「外国語（英語）活動」の必修化、5・6年生での「外国語（英語）」の教科化が始まります。ますますコミュニケーション型な英語教育の実施が求められています。本学には、その専門性を活かして得られる資格として、NPO法人小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）の「小学校英語準認定指導者資格」があります。資格の取得を目指す学生は「児童英語指導者養成講座」の授業に連動した通信講座とワークショップを受講する必要があります（*費用別途）。さらに、「児童英語教育演習」などの科目を履修し、多様な児童英語教育関連のサービスラーニング活動に参加して指導実践の経験を積むことで、在学中に正資格の取得申請へと繋げることが可能です。

「小学校英語準認定指導者資格」「小学校英語指導者資格」を取得するには

1. 「児童英語指導者養成講座」を履修し、単位を修得する。
併せて通信講座「アルク児童英語教師養成コース」を受講。
(受講料：上智大学短期大学部特別価格 60,000円＋消費税（予定） 2018年10月時点税込64,800円)
期限内に通信課題を提出し、所定の成績基準を満たして通信講座を修了する。
2. J-SHINEまたはアルク指定の「小学校英語指導者資格取得研修講座」に参加する。
(2日間集中、受講料：34,259円＋消費税（予定） 2018年10月時点税込37,000円)
3. アルクを通じてJ-SHINE資格認定の申請を行い、J-SHINEによる審査を受ける。
合格すればこの段階で、指導実践の経験の有無を問わず「小学校英語準認定指導者資格」が取得できる。
4. 上記準認定資格から、さらに正認定資格である「小学校英語指導者資格」の取得を目指す場合、本学サービスラーニング活動等への参加により、正認定の条件となる幼児および小学生を対象とした50時間の指導実践経験を得ることが可能である。

※「小学校英語準認定指導者資格」「小学校英語指導者資格」は、NPO法人の資格であり、公的資格である「小学校教員免許」ではありません。詳細は<http://www.j-shine.org/>をご覧ください。

6. サービスラーニングとアクティブラーニングとの関連

本学で開講されるサービスラーニング関連科目（児童英語教育演習科目及び日本語教育と関連したゼミナール科目）およびそれらに伴う教育支援活動は、アクティブラーニングの実践の場としても位置づけられています。上記の科目では、学生は英語教育や日本語教育の理論と実践法について授業で学び、それを基に地域社会の教育機関等で教育支援活動を行い、さらにそこで発見した課題を学内に持ち帰り議論するという形が取られ、能動的（Active）な実践と課題解決型の学び（Project Based Learning）が重視されています。学生は地域社会での活動を通じて、地域の人々と対話・交流し、社会が直面する言語教育や多文化共生等に係る課題を発見するよう努力します。それらの課題について、学内で教員や他の学生と議論を重ね、協働的な試みを通して、学びを深めます。また地域社会で得た気付きについて、ICT（Information and Communication Technology）技術を活用して、教員および他の学生とインターネット上で共有や意見交換を行い、さらにそれが教室内での議論を活性化します。学生は自ら実践した授業活動の様子を収めた映像を学内で共に分析し、レッスンプランや教授法を向上させることもあります。

このように、学内と地域社会における教育ボランティアの実践を核とした能動的な学びを通して、言語教授法への理解及び実践力を高め、多文化共生に係る言語や教育、文化、そして社会的課題への理解を深め、同時にコミュニケーション力や社会人基礎力、課題発見・解決力といった汎用的能力（Generic Skills）をも身に付けていきます。